

と何とも盛沢山なことになっていました。それでもお祭りらしく、目移りするメニューを皆で和気あいあいとお腹いっぱいいただきました。

ヤル気満々でフル稼働してくれたスタッフ・ボランティアの皆様、笑顔いっぱい楽しんでくれた利用者の方々様々な形でご寄付・ご協力いただきましたご家族の皆様、ありがとうございます。今後もコラボレーション企画をさせていただきたいので、またよろしく願いいたします。



グループホーム『シン・ビーンズ』始動。

福島育成園 林 祥子

この夏、福島育成園が運営するグループホーム(以下、GH)《ビーンズ》が移転し、新たなスタートをきりました。



【GHビーンズ正面玄関】

サービス付き高齢者住宅へ。毎日、一緒に食卓を囲んでいたメンバーが抜けたことに寂しさを感じつつ、新たな展開の必要性も感じ始めていました。そのような時、福島育成園から手を伸ばせば届きそうな超至近距離で住宅提供の話が舞い込みました。3階建ての4LD

K、トイレは2か所(共同生活にトイレの数は大切!)、しかもお部屋は全て独立した間取り。まるでGHのために建てられたような住宅です。

ビーンズは、平成13年の開所以来、平成24年には野田阪神駅近くに移転、永きにわたり同じマンション内に男性3人が5階、女性3人が6階で暮らしてきました。しかし、年齢を重ね、次のステージへ移ることを決意された70代の女性が、4月下旬、サービス付き高齢者住宅へ。毎日、一緒に食卓を囲んでいたメンバーが抜けたことに寂しさを感じつつ、新たな展開の必要性も感じ始めていました。そのような時、福島育成園から手を伸ばせば届きそうな超至近距離で住宅提供の話が舞い込みました。3階建ての4LD



【くつろぎの共同スペース】

しかし、移転に際して何より大切なのは利用者の皆さんの気持ち。慣れ親しんだ部屋を出るのは、思いのほかエネルギーが



【食事の準備をする世話人さん】

新天地は見知らぬ場所ではありませんが、それでも生活のリズムは大きく変わります。が…少し考えを巡らせた結果、男性陣は3人とも『ええよ!』と。



【今日のメニュー】

さらに、今回、もう一つ大切なこと。それは、仮にマンションを2戸とも引き払い、新しい物件を男性陣の移転先とするのであれば、おふたりの女性の意見を尊重したうえで、『新たな生活の場を探さなければならない』ということ。相談支援担当者に協力を仰ぎ、それぞれの日中活動先に近い所に住宅型有料老人ホームとGHを見つけられたことでビーンズの移転が決定しました。

さて、いよいよ引越し作業のスタートです。暮らしていた期間に違いはあるものの、皆さん一様にその荷物の量たるやっっ!! 5名+共有部分の荷造り…気の遠くなる作業ではありましたが、【大事なものは自分で詰める!】と、自身で緩衝材を買い、せっせと荷詰めする姿に励まされながら、スタッフも負けじと奔走! 狂奔! まさに粉骨砕身!!

転居当日、20年以上GHで暮らした女性は涙が止まらず、振り返り振り返り最後の挨拶を。もう、お一人はいつも通り事業所へ。それぞれらしい別れのシーンでした。男性陣は…2人は朝から舞洲へ…やはりルーティンは大事(笑)そして怒涛の引越しは12時間にも及ぶ大仕事! 冷蔵庫が入らないハプニングもあり、屈強な引越し屋さんもへトへト…そんな中、世話人さん達は元気に鼻歌交じりで荷物を片付け新生活への準備を進めてくれました。

ビーンズは世話人さんは入りますが、夜間の宿直や朝の支援はありません。各自、洗濯、入浴、朝食、戸締り、出勤と決まったリズムで動かれます。金銭管理などのサポートは必要ですが、それもスタッフと相談